

## 週間火山概況 (平成 22 年 4 月 16 日 ~ 平成 22 年 4 月 22 日)

### 【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

16日、霧島山（新燃岳）に噴火予報を発表し噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）に引き下げた。

その他の火山は、噴火に関する予報警報事項に変更はない。

表1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴（4月16日～4月22日）

発表日時	火山名	警報・予報	概要
4月16日11時00分	霧島山 (新燃岳)	噴火予報	噴火警戒レベルを1（平常）に引下げ
毎日07時、17時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表2 4月22日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	桜島
	レベル2（火口周辺規制）	三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ケ岳、岩手山、秋田駒ケ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（新燃岳）、霧島山（御鉢）、口永良部島
	平常	上記以外の活火山



図1 噴火警報発表中の火山（4月22日現在）

## 【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

### 三宅島みやけじま [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

前期間の10日と11日にごく小規模な噴火が発生したが、それ以降、噴火は発生していない。噴煙高度は火口縁上100～300mで推移し、特段の変化は認められない。火山性地震はやや多い状態が続いている。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

三宅島では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性がある地域では、火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

### 硫黄島いおうとう [火口周辺警報（火口周辺危険）]

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過している。

国土地理院の観測によると、2006年8月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動は、現在はほぼ停滞している。島内南北方向の伸びの傾向は継続している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

### 福徳岡ノ場ふくとくおかのば [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

今期間観測は行われなかった。海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測では、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福徳岡ノ場では小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

### 霧島山きりしまやま（新燃岳しんもえだけ） [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）] 16日に噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から引下げ

遠望カメラによる観測では、噴煙活動は低調な状態が続き、火山性地震は4月7日以降少なくなった。また、火山性微動は3月31日以降発生していない。これらのことから火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断し、16日に噴火予報を発表して噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）に引き下げた。

17日01時15分頃、降灰が火口内にとどまる程度のごく小規模な噴火が発生し、噴煙が火口縁上300mまで上がった。火山性地震は少ない状態で経過していたが、ごく小規模な噴火が発生した後やや増加し、その後も増減を繰り返している。

霧島山（新燃岳）では、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、火口内及び西側斜面では引き続き噴気がみられており、その近傍では火山灰等の噴出に警戒が必要である。

### 桜島さくらじま [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

昭和火口では、爆発的噴火が30回発生し、大きな噴石<sup>1)</sup>が3合目（昭和火口から1300～1800m）まで達した。また、同火口では夜間に高感度カメラ<sup>2)</sup>で確認できる程度の微弱な火映が時々観測された。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

火山性地震は少ない状態で経過している。また、噴火に伴う火山性微動が発生している。

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、始良カルデラあいら（鹿児島湾奥部）深部の膨張による変化が引き続き観測されており、2010年はじめ頃から、桜島島内においても伸びが観測されている。

桜島の昭和火口及び南岳山頂火口から2km程度の範囲では、大きな噴石<sup>1)</sup>及び火砕流に対する警戒

が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>(火山れき<sup>3)</sup>)にも注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

- 1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。
- 2) 九州地方整備局大隅河川国道事務所が黒神河原上流に設置したカメラ等による。
- 3) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

#### 薩摩硫黄島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態が続いている。火山性地震はやや多い状態が続いている。薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>にも注意が必要である。

#### 諏訪之瀬島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

御岳火口では、小規模な噴火が時々発生した。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると17日に集落(御岳の南南西約4 km)で極少量の降灰が確認された。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、今後も御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1 km の範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>にも注意が必要である。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

### 【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山
噴火警戒レベル(キーワード)	警報・予報	警戒事項等(キーワード)
レベル5(避難)	噴火警報	居住地域嚴重警戒 または山麓嚴重警戒
レベル4(避難準備)	火口周辺警報	入山危険
レベル3(入山規制)	噴火予報	火口周辺危険
レベル2(火口周辺規制)		平常
レベル1(平常)		

海底火山については、噴火警報(キーワード:周辺海域警戒)と噴火予報(キーワード:平常)で発表する。